

Borba

について

ボルバ

ボルバ（Borba）は、イベリア半島がガリア・ケルト人に占領されていたはるか昔に築されましたが、この町の重要性和発展がキリスト教徒によるレコンキスタやポルトガル領土の防衛と密接に関係していることは言うまでもありません。

ボルバは、アフォンソ2世（D. Afonso II）治世下の1217年にキリスト教徒によってムーア人から奪還されました。アフォンソ2世は直ちに城の建設を命じ、この地域の支配権をサン・ベント・デ・アヴィス騎士団に引き渡しました。1297年、アフォンソ2世の後継者であるディニス王（D. Dinis）は、スペインとの国境に近い位置にあるという理由からボルバを領土の防衛ラインに含めたアルカニゼス条約を締結し、ポルトガルの国境を定めました。1302年、彼はボルバに憲章を授与して城壁の強化を命じ、この地方の行政上の境界線を定めました。その当時の行政上の境界は、エルヴァス（Elvas）、エストレモス（Estremoz）およびヴィラ・ヴィソーザ（Vila Viçosa）といった近隣の街との境界線に沿って設定されました。16世紀にはマヌエル1世（D. Manuel I）によって憲章が改められました。

17世紀になると、スペインに対するポルトガルの独立戦争でこの町は領土の防衛上、再び重要な役割を果たすようになり、1665年にはすぐ近くのモンテ・クラロス（Montes Claros）が最後の激戦場となりました。記念碑とノッサ・セニョーラ・ダ・ヴィトリア礼拝堂（Ermida de Nossa Senhora da Vitória）の建造がこの地でのポルトガルの勝利の証です。

町を歩くときに注意して見てみると、ドアの枠や窓枠、煙突先端の通風管、通りの標識や記念物に大理石がふんだんに使用されていることに気づかれるでしょう。その理由は、この地方に極めて良質の大理石を産する採石場がいくつかあるためです。教区教会（Igreja Matriz）（15世紀）、サン・バルトロメ教会（Igreja de São Bartolomeu）（16世紀）、セルバス・デ・クリスト修道院（Convento das Servas de Cristo）（17 - 18世紀）、およびフォンテ・ダス・ビカス（Fonte das Bicas）（18世紀）などは、大理石がこの町でどのように使用されているかを示す格好の例です。

ボルバを訪れるのに最適な時期は、ワインフェスティバル（Festa do Vinho）が開かれる11月です。この時期はまた、この地方で生産されるワインを味わい、地元の手工芸品や料理を発見するのによい時期でもあります。